

横浜市教育委員会
定例会会議録

- 1 日 時 平成26年7月4日（金）午前10時00分
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席委員 今田委員長 西川委員 間野委員 坂本委員 長島委員 岡田委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

平成 26 年 7 月 4 日（金）午前 10 時 00 分

- 1 会議録の承認
- 2 教育長一般報告・その他報告事項
平成 25 年度横浜市学力・学習状況調査の実施結果について
- 3 審議案件
教委第 29 号議案 横浜市少年自然の家指定管理者選定評価委員会委員の任命について
- 4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

～傍聴人入室～

今田委員長

では、ただいまから教育委員会定例会を開会いたします。
はじめに、7月1日付で長島委員が就任されましたので、御紹介をいたします。

長島委員

おはようございます。長島由佳でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

今田委員長

次に、会議録の承認を行います。6月6日の会議録の署名者は、間野委員と坂本委員です。

会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

今田委員長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。なお、前回6月20日の会議録については、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育長から一般報告をお願いします。

岡田教育長

【教育長一般報告】

1 市会関係

2 市教委関係

(1) 主な会議等

- 6/26 第1回 横浜市児童・生徒指導中央協議会
- 6/28 東台小学校120周年記念式典
- 7/1 第2回全体校長会議
- 7/1～ 各区横浜子ども会議

御報告いたします。

主な会議ですけれども、6月26日に第1回の横浜市児童・生徒指導中央協議会を関内ホールにて開催をいたしました。「子どもの自己有用感を育て、いじめが起きにくい風土づくりを推進する」というテーマで開催をいたしました。当日は、神奈川県警本部の生活安全部長の宮下様に御講演をいただきました。また、実践報告として、星川小学校、早渕中学校からの報告、そして最後に「子どもをとりまくスマホ・ケータイの状況と情報モラル教育」ということで、一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構の事務局長を務めております吉岡先生から御講演をいただきました。

6月28日です。東台小学校120周年記念式典が開催されまして、西川委員に御出席をいただきました。

7月1日、第2回全体校長会議を保土ヶ谷公会堂で開催いたしました。西川委員、長島委員に御出席をいただき、私と教育次長から少しお話をさせていただきました。その後、「信頼形成のための学校広報」ということで、国際大学グローバル・コミュニケーションセンターの豊福先生から御講演をいただきました。

7月1日から、各区の横浜子ども会議が開始されました。7月1日から17日までの間、各校の代表の小中学生が区ごとに集まって討議をいたします。今週は、7月1日に青葉区と瀬谷区、7月4日に神奈川区と金沢区が開催されています。各区代表の児童生徒によります横浜子ども会議は、8月19日に開催を予定しております。

(2) 報告事項

○平成25年度横浜市学力・学習状況調査の実施結果について

次に、報告事項ですけれども、平成25年度の横浜市学力・学習状況調査の実施結果につきまして、後ほど所管課から御報告をさせていただきます。

以上です。

今田委員長

教育長の報告が終了しましたが、御質問等がございましたらどうぞ。

よろしいですか。では、私のほうから一つ、すみません。7月1日、全体校長会議での講演が、教育長のお話であったのなら、私も聞きに行ったんですけれども、教育長、どんなお話をされたのですか。

岡田教育長

まず、市長が元気に公務に復帰されたお話と、それから業務実態調査を実施いたしましたので、これからしっかり改善をしていきますというお話です。それから、今、御注意いただきたい学校現場の内容について幾つかをピックアップしてお話をさせていただきました。

今田委員長

そうですか、はい。分かりました。どうもすみません。

それでは次に、別途所管課から説明とありました「平成25年度横浜市学力・学習状況調査の実施結果」について、御説明をお願いします。

入内嶋指導部長

指導部長の入内嶋でございます。

平成25年度の横浜市学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、御報告をさせていただきます。詳しくは、担当の指導主事室長から御説明させていただきます。

吉原指導主事室長

指導主事室長の吉原でございます。

平成25年度の横浜市学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、御報告をさせていただきます。

まず、横浜市学力・学習状況調査、これは横浜市独自で行っている調査でございます。平成18年度より、小中学校全学年・全児童生徒を対象に行っております。内容といたしまして、小学校1、2年生では国語・算数、3年生から6年生まではそれに社会と理科を足しております。中学校におきましては、国語・社会・数学・理科・外国語（英語）の5教科で教科調査を実施しております。これに小学校1年生から中学校3年生まで、生活・学習意識調査というものも行ってございます。これだけの規模でこういった調査を行っているのは、全国的にも類を見ないものだと思っております。

実施時期が、中学校3年生は11月、他の学年につきましては2月に実施しております。これは年度末に実施することで、当該の学年における学習の状況を適確に把握できるという目的に沿って、この時期に行っているものでございます。

そして、この結果をまず児童生徒一人ひとりが、自分の学習について定着の状況を確認すること、そして次年度に向けた自己の課題を明確にすることということが挙げられます。このために児童生徒一人ひとりには、調査直後に自己確認表、また調査結果シートという形で全教科の結果を手元にすぐに渡せる状況になってございます。

学校におきましては、調査の結果が各学校のデータとして手元に届きますので、自校の児童生徒の学力及び生活・学習意識等について確認することができます。それをもとに、その実態の中から改善に向けての取組を各学校が構築していくこととなります。具体的には、学力向上アクションプランなど具体策を構築し、改善に取り組んでいくということとなります。

横浜市といたしましては、横浜の児童生徒の実態を把握し、取り組むべき内容を整理して施策に生かしていくということで、この調査をいたしておるところでございます。

それでは、平成25年度の調査結果について、御説明申し上げます。

今回、調査結果を3つの視点からまとめました。

1つ目は、教科調査でございます。2つ目は、学習意識と学力の関係をクロス集計してまとめました。3つ目といたしましては、生活・学習意識調査の視点で整理をいたしました。

プリントをご覧ください。

1つ目の教科調査、こちらは正答率と経年変化から見たものですが、調査問題は基礎・基本問題と活用問題の2種類の問題から構成されてございます。基礎的・基本的な知識・技能は、定着の傾向が見られました。

2つ目としましては、活用問題の結果から、資料の読み取りと気づきに課題があると判断できました。学習意識と学力の関係から、クロス集計をしたものの結果でございます。授業中よく発表する子供は、知識や技能を活用する力が学年が進むにつれて伸びてきている傾向が見られました。

3つ目としましては、生活・学習意識調査から3点挙げております。1つ目は、「授業が分かりやすい」と感じる子供が増加傾向にございます。2つ目としましては、人の気持ちを考えて行動する子供が増加傾向にあります。3つ目としまして、中学生では家庭での学習機会が減少傾向にあるという結果が見られました。

次に、資料の説明をさせていただきます。

1の「教科調査から」には正答率と経年変化が、1ページには小学校6年生と中学校3年生の結果が載っております。資料の4ページには、その他の学年の基礎・基本問題と活用問題、それぞれの正答率を全て示させていただいております。ですので、1ページの下と4ページで、全て学年の正答率が示されていることとなります。

2ページをお開きください。2ページの最初に、経年の変化を見る設問の正答率を掲載してございます。この経年の変化を見るというのは、過去に出題した問題と同じ問題を、子供たちの基礎・基本の定着状況を確認するために出すものでございます。毎年、全体として問題が違いますので、子供たちの傾向の変化というものを見るために、この経年変化の問題を出題しております。ここでは一層、知識・技能等の基礎的・基本的な力を確実に習得していくことが求められるということが確認されました。

余り大きな変化ということではないのですが、例えば算数の柱状グラフの読み取りというものが以前に比べて10ポイント低くなっているということ等を見ますと、やはり学習できちんと身に付けさせていかなくてはいけないことを再度確認をしていくことが大切になるかと考えられます。

2、クロス集計についてでございます。これは学習意識と学力の関係を、双方のデータから出したグラフでございます。ここでは「授業では自分の考えを発表していますか。」という質問に対して、その回答と、正答率とをクロス集計したものでございます。これを見ますと、自分の考えを発表で「よくしている」と答えている子供のグラフが、一番左になります。左側から、小学校1年生から6年生までの6本のグラフになっております。

右側に行くにしたがって、「どちらかといえばしている」「どちらかといえばしていない」「していない」という回答をした子供たちの正答率がこの棒状のグラフになっておりますので、自分の考えを発表を「よくしている」という子供の正答率に比べ、「していない」と答えている子供の正答率が低くなっている傾向が見えます。右側の「Check!」のところにありますように、小学校1年生では11.0ポイントの差、小学校6年生に至っては16.9ポイントという大きな差になってきているということからしますと、やはり子供たちが自分の考えを主体的に発表していく場面をたくさんつくること、またそれを進んで取り組ませることで学力にも好影響が出てくるのではないかと考えられるということでございます。

2ページが一番下にあります、3、生活・学習意識調査、こちらは平成20年度と25年度の回答について比較をしたものでございます。

まず、「学校の授業は、分かりやすいですか。」に対する回答としましては、小学校1年生から中学校2年生では数値が2から最大9ポイント、「分かる」という回答になっております。5年を経まして、このような変化が見られたということでございます。

3ページに行きまして、こちらは22年度から始めた調査でしたので、22年度との比較になります。「人の気持ちを考えて行動していますか。」に対する回答として、どの学年も大変大きな伸びを見せました。数値的には2から3なのですが、もともとの数値が高いものですので、それでもかなりの伸びを見せているという傾向が見られました。横浜市としましては昨年度、横浜子ども会議を通してのアピール文に、「想（おもい）～相手と心から向き合おう～」というものが採択されましたが、子供たちに相手の気持ちを考えて、人の気持ちを考えて行動することの大切さというのを、今後もやはり取り組んでいくことが非常に重要であろうということを感じております。

その下のグラフは、「1日にどれくらい勉強をしますか。」に対する回答でございます。これは2時間以上、学習塾や家庭教師の時間を除いて家庭学習をする時間ということに対しての設問でございました。これは平成20年度との比較になりますが、中学校1年生から3年生のグラフでございます。特に、中学校1年生と2年生が、2時間以上家庭での勉強をするという子供が大幅に減ってきているということが見られます。

家庭学習と学力の関係性というのは、国もかなり強く言っているところでもあります。やはり家庭で勉強しながら、家庭での時間の使い方等をきちんとさせていくことも今後取り組んでいかなくてはいけないかと考えているところでございます。

3ページの下は、調査の概要で、先ほどもお話をしたことですが、下の図が調査結果の活用のイメージということで示させていただきました。先ほどもお話しさせていただいたように、横浜市学力・学習状況調査は、児童生徒・保護者がこ

の調査結果について、どのように把握して今後に活かしていくのか、そして学校として学力向上にどのように取り組んでいくのか、また生活等の改善にどのように活かしていくか、また教育委員会としましても施策に活かしていくという、その内容を示した図でございます。

報告については、以上でございます。

今田委員長

所管課からの説明が終わりました。何か御質問等がございましたらどうぞ。

西川委員

5年間の変化をいろいろと見せていただきまして、大変参考になりました。ただ、非常に心配なところがありまして、例えば1ページ目のところだと、小学校6年生、それから中学校3年生のところでの各教科ですか、教科の名前は違うものが入っているんですけども、特に小学校6年生では理科の活用の部分が25年度は非常に下がっていますよね。これは、課題がいろいろあると思うのですが、どういうことか分かれば教えていただきたいと思います。中学校3年生の方でも、理科が活用のところがやはり下がっているんです。ですので、その辺りに何かあるのかなというのが、一つ心配があります。

それからもう一点なんですけれども、「3 生活・学習意識調査から」の部分について、先ほども説明がありましたが、3ページの上から2つ目の20年度との比較というところで、「1日にどのくらい家庭学習をしていますか。」ということの回答ですが、中学生において非常に短くなっているというのは、これ嘆かわしいことだなと思うのですが、「学習塾・家庭教師の時間を除きます」とあります。つまり、純粹に家庭でやる時間ということだと思ってしまうんですが、これと関連して、今話題になっておりますLINEとか、そういうところに時間を取られてしまっているのかどうかということも検討しなくてはいけないかなと考えておりますが、分かったら教えていただきたいと思います。

ありがとうございました。

今田委員長

どうぞ。

吉原指導主事
室長

理科の結果につきましては、私どももこれは大変大きな課題であろうかと思っております。特に、活用問題については、自分たちで主体的に考えて表現していく力ということで、やはり重視しているところでもあります。ただ、申し訳ないのですが、いまだ細かい精査をしていないところがありまして、改めて教科担当とも今一度こういった原因を考察して、今後どのような指導に重点をおいて進めていくべきかということ、夏の教育課程研究協議会もありますので、そういった場面で効果的な発信ができるように考えていきたいと思っております。

活用問題につきましては、答えが1つだけではなく、記述をしたりですとか、複数の解答を求めるような場面もありまして、子供たちが完全な正答にまで行き着いていないような傾向が見られるという話は受けておりますので、子供たちが考えをきちんと構築して結論まで導き出していくための指導、考え方を構築していくことということをやはり今後取り組んでいかななくてはいけないかなと、今の時点では考えております。

それと家庭での学習時間が減少していることにつきましては、今回の調査ではスマホ等の利用について全く私どものほうとしてはデータがございませんので、今後そういった視点も視野に入れながら情報を収集して、子供たちの生活実態ということはやはり確認していかななくてはいけないと思っております。

今田委員長

どうぞ。

西川委員

先ほどの1ページの理科のところなんですけど、やっぱり活用のところの課題が非常に多いなと感じるんですけども、是非理科が好きになるような授業をしていただけたら考えますので、興味を持たせるような授業の工夫を是非進めていただけたらと思います。

吉原指導主事
室長

ありがとうございます。小学校3年生から6年生の意識調査を見ますと、理科の授業が「楽しい」とか、「分かる」と回答する子供の数は増えてきている傾向がございます。大変それは心強いところではありますので、そういった興味・関心を生かして理科の本来の面白さである科学的な思考といったものにつなげていくことが、今後やはり大事になろうかなと考えております。

今田委員長

坂本委員、どうぞ。

坂本委員

今の西川委員がおっしゃったことと同じことで、ちょっと別の言い方をするんですけど、こういう調査って往々に「こういう質問しました」、そして「こういう結果が出ました」というような形で、それが調査結果の発表につながっているんです。だけれど、本当に知りたいのは、どうしてそういう結果が出たのかということが知りたい訳で、どんな結果が出たかということも意味がありますが、その裏が読めないと駄目だと思います。これは今回だけじゃなくて、私いつでも思うんですけども、調査結果の発表というのは数字を読むところまできちっとしていただきたいんです。皆様プロですから、そんなに大々的にまた「調査をします」ということですが、ある方たちが集まって話をすれば分かると思います。プロ中のプロですから。ですから、例えば今回の理科だって「他のものと比較してもこんなに低い」と、ましてや「前回からの半分になっている」と、この原因が思い当たらないはずがないと思うんですよ。例えば、教科書が悪かったのか、理科の実験の一部が足りなかったのか、それとも理科の先生が不足していい先生が足りなかったのか、何かあるはずですよ。これだけのことが起こるんですから。

それから、2ページ目、「3 生活・学習意識調査から」に、「学校の授業が分かりやすいという児童生徒が増えました」といって、それがどういうことなのかに触れていただきたいと思います。それはいい生徒が入ってきたから増えたのか、それとも何かそういう悪い人がいなくなったから集中できたのか、それとも先生たちの教え方が良くなったのか、先生たちが少し学習準備をするゆとりができたのか、教科書が違ったのか、何かあるはずなんです。ですから、そこを見ていかない限りは、調査結果の意味というのは第三者が聞いても分からないと思います。

それから、特に今、西川先生がおっしゃった、これだけ一日の勉強時間が少なくなったということについて、「これから強化します」と言っているうちに、またどんどん事態は変わっていきます。ですから、その辺りについてもう少し危機感とか、それから触覚をもうちょっと立てていただいて報告していただくと、報告がものすごく生きてくるし、それができていれば、すぐ施策につながるんです。ところが、今のお話だと、これからそれを分析して報告すると言っているうちに、すぐ半年がたちやいますよね。調査が良いだけにちょっと残念なところがありました。

今田委員長

間野委員、どうぞ。

間野委員

まさに、坂本委員がおっしゃったことと同じです。これは成果評価なんですよね。子供たちの実態調査じゃなくて、何かしら施策を打って、その結果こういうヒントが生まれているということだと思います。つまり、PDCAサイクルの「C」なんですよね。チェックをしたわけなんです。どこを今後修正するのかということを、これ教育委員も含めてなんですけれど、事務局としてはやっぱりそれは直ちに考えなければいけないと。もう既に1学期が終わるわけですよね。今年度は多分もう対応ができない中で、来年度以降の教育内容とか教育方法にどう反映させていくのか、また、それを行政として、どう手を打つのかということをやらないと、「これは調査しました」「数字が出て変化しました」というだけになってしまっていると思います。

同じように先ほどの説明ですと、「よく発表する子供が正答率が高い」って、何か当然の気がするんですよね。正答するような子供だからよく発表するわけで、だからって皆が手を挙げたら、それで学力が上がるというのは因果関係が違いますよね。ですから、その辺りはもう少しきちっと施策に、坂本委員が言うように施策にどう反映させるのかってということも考えていかないといけないと思います。「授業で皆もなるべく手を挙げましょう」とやっても、学力調査が上がるということは多分考えにくいと思うんです。

こういうデータが出てくるのは、やはり多角的に分析して、それで対策というか、次の施策を考えると。一方で必ずこれタイムラグも出てきていますので、前年度と比較して、それほど一喜一憂する必要もないと。もう8年間やってきているので、8年間の傾向として、この8年間打ってきた教育行政がどういうふうに変化が出てきているのかというのは、やっぱり中長期的にトレンド分析をする必要があると思います。

同じように、2ページの「学校の授業は、分かりやすいですか。」の答えが増えているというんですけれども、これも厳密にいうと統計的により細かい分析が必要かもしれないですよね。誤差の範囲かもしれない。ですから、そういう数字を扱うのであれば、もう少し正確に、坂本委員が言うには、相関関係は分かるけど、因果関係までは分からないというのではなくて、因果関係はやはりその現場の先生に聞かないと分からないところがあると思うので、今より是非踏み込んでほしいと思います。

御苦労様でした。

今田委員長

長島委員、どうぞ。

長島委員

3ページの「1日にどれくらい勉強をしますか。」というところの調査で、勉強時間が減っているというところなんですけれども、「塾の時間と家庭教師の時間を除く」とあるんですが、子供たちは家に帰るとどうしてもゲームだとかスマホをしてしまうということから、図書館であるとか学習塾で自己学習をするという子供が増えていると思います。現場の保護者の方々等のお話の中で、例えば塾は8時に終わっているけれども、10時まで塾で勉強してから帰ってくるのかということを見比べると、その調査項目の中に「どこで」といったような、自分なりの自習の時間というものに関する設問を考えたほうがいいのかと思います。

子供たちの生活スタイルが変わっていく中で、スマホの悪い影響もあるけれども、それはやはり自分で解決していこうという力も少しは備えていっているというのものもあるのではないかなと思いますので、アンケートそのものを拝見しないで

申し訳ないんですけれども、アンケートづくりに生活スタイルを反映していただくと、もっと正しいというか、正確な数値が出てくるのかなと思いました。

今田委員長

ありがとうございました。他にありますか。

それでは、私から一言。1 ページのところ、「1 教科調査から」で、「基礎的・基本的な知識・授業の定着」とあって、知識がついたと、また、「資料の読み取りと記述に課題」とあって、その一番大事な知恵の部分、ここが一番肝心、大事なところだと思うんですね。どう知恵を付けていくかという、生きていく上においての。だから、この取組の仕方というものの中に何かそこにもう少し工夫というか、教育の中での工夫が、ちょっと語弊があるのかもしれないけれど、何かそこに主体性、自主性を発揮できるようなものを、これからは考えていくと。与えられたものを頭の中に入れ込む、それも言うのは簡単かも知れないけれども、それを消化して自分の中にある蓄積されたものとどう結びつけていくかというような部分のところが重要さみたいなものを、「ここは課題だ」ということでいけば、やはりそれは大変に大きな課題だと思います。だから、かなりベースの部分があるというのは良いことなんだけれども、このベースを踏まえて、是非もっといろいろ議論を重ねていただきたいなと思います。

それと皆さんがおっしゃった中にもありますが、記者発表するということにこれだけ理科が前と比べたら下がっているという結果に対して「これから考察します」というのは、記者の皆さんからすると「何を」という感じになると思います。これはやっぱり今後は心の準備をして、これから記者発表をするんだから、大至急理科の先生に知恵を借りて準備しないと。もっとも、せっかく皆で頑張っ

てやったものを生かしていくことが大事ですけどね。

坂本委員

委員長、ちょっといいですか。

今田委員長

どうぞ。

坂本委員

今、委員長がおっしゃったことで私も気がついたんですけれども、どの学科についても活用が悪いんですね。これは多分教えるのが活用の部分は難しいんだと思うんですよ。知識は何とか、そういう教科書の一定のことを教えればある程度は定着しますけれども、活用というのは、そこに人間性とかテクニクとか入りませうでしょう。私、ここに、教職員の実態調査をしていただいた不安感・多忙感、それから授業の時間の足りなさ、そういうものが反映していないのかなと思います。やっぱり活用の部分は先生のゆとりの問題です。ですから、今、委員長が大変いい御指摘をしていただいて、私も初めて気がついたんですけれども、是非そういう見方もしていただいて、生徒がどうだとか何とかじゃなくて、教えるほうの状態がどうかということまで突っ込まないと、施策には結びつかないところがありますよね。すみません、便乗しまして。

今田委員長

いやいや、ありがとうございました。どうもどうも。では、この件については、今の各委員の意見を踏まえて、またいろいろ事務局で議論をしていただきたいと思います。教育長、何かよろしいですか。それでは、御苦勞様でした。よろしく願います。

それでは次に、議事日程に従い、審議案件に移ります。まず、会議の非公開について、お諮りします。教委第29号議案「横浜市少年自然の家指定管理者選定評価委員会委員の任命について」は、人事案件のため、非公開としてよろしいでし

ようか。

各委員

<了 承>

今田委員長

それでは、教委第29号議案は、非公開といたします。審議に入る前に事務局に確認ですが、何か報告事項はありますか。

伊東総務課長

次回の教育委員会臨時会は、7月18日金曜日、午前10時から開催する予定ですので、よろしくお願いいたします。

今田委員長

皆さん、よろしいでしょうか。

それでは、次回の教育委員会臨時会は7月18日、金曜日の午前10時に開催する予定です。別途通知しますので、御確認ください。

その他、委員の皆さんから何かございますか。

特に御発言等がなければ、非公開案件の審議に移ります。傍聴の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も御退席ください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

<非公開案件審議>

教委第29号議案「横浜市少年自然の家指定管理者選定評価委員会委員の任命について」

(原案のとおり承認)

今田委員長

それでは、原案のとおり承認します。

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会定例会を閉会といたします。

[閉会時刻：午前10時37分]